

海外
論文 &
レポート

地域通貨から補完通貨へ ～欧州での新しい取り組み～ 1

廣田裕之（立命館アジア太平洋大学）

mig@olccjp.net

<http://www.olccjp.net/>

7月18日から22日にかけて、ドイツはボン近郊のバート・ホーネフ市にあるカトリック社会研修所(KSI)で「欧州補完通貨会議」が開催され、欧州外の6カ国を含む20カ国から160名が集まって補完通貨に関する議論を重ねました。まずKSIのヨアヒム・ジコラ(Joachim Sikora)所長が、新自由主義の名の下に公共サービスが削減され、貧富の格差が拡大する一方の現在の経済状況の問題点を指摘した上で、持続可能な社会を運営してゆくためには地産地消、特に風力発電や太陽光発電などを利用することでエネルギー面での自給自足を推進し、地域内で最低限のものを賄える社会にしてゆこうという提案がなされました。マルグリット・ケネディ女史の講演(これについては第2回で詳しく書きます)が続いた後で、欧州各国の多様な事例が紹介されました。なお、この会議の詳細については、

10月に会議の記念のCD-ROM(英語)が刊行される予定ですので、それをご覧ください(入手先については廣田までご連絡を)。

なお、ここでは「地域通貨」ではなく「補完通貨」という表現を使いますが、これは「The Future of Money」(邦題「マネー崩壊」、日本経済評論社)の著者でこの分野では世界でも指折りの研究者であるベルナルド・リエター氏(Bernard Lietaer)が提唱した表現で、日本円や米ドル、それにユーロなど法定通貨が現行経済で果たしている役割を認めた上で、その法定通貨が構造上宿命的に持つ欠陥(地域からの資金流出、先進国から発展途上国への工場移転とそれに伴う失業増、対外債務に追われて自国の発展のために十分な資金を投入できない重債務国の問題など)に対処し、法定通貨をそれぞれ「補完」する役割を担う通貨が必要だという考えです。リエター氏は現在の法定通貨に競争、独占など「男性的」特徴を、補完通貨に協働、共有など「女性的」特徴を見出し、前者を「陽通貨」、後者を「陰通貨」と呼んでいます。彼は「地域通貨」のレベルだけではなく、全世界で機能する補完通貨としてテラ¹を構想しています。

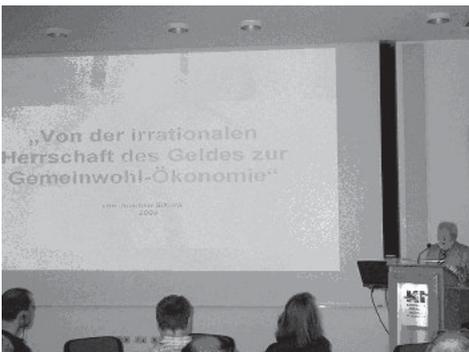


写真1: 講演するKSIのヨアヒム・ジコラ所長

この中で、企業の社会的責任(CSR)と何

らかの関連があると思われる事例をいくつか選定した上で、NTT データ経営研究所と立命館アジア太平洋大学 (APU)、それに農林中金と京都大学の合同視察団が9月7日から14日まで欧州各地を歴訪し、事例の担当者と意見交換をしてきました。その模様について、3回にわけてお話ししたいと思います。

LIBRAプロジェクト(イタリア・ミラノ市) <http://www.aequilibra.it/>

最初にご紹介する LIBRA プロジェクトは、イタリア・ミラノの商科大学であるボッコニ (Bocconi) 大学のプロジェクトチームが考案したシステムです。まだ実際にこの LIBRA が実施されているわけではありませんが、企業・一般市民・NPO の3者を結びつける非常に面白い試みとして各地で高い評価がなされており、実施に向けた取り組みが始まりつつあります。

このプロジェクトはまず、日本では量販店などでおなじみのポイントカードの導入から始まります。たとえばお酒を1万円ぶん買った消費者に1000ポイントが入り、このポイントを利用して同じお店でもう一度買い物ができるという具合です。しかし、このポイントが「減価」し、たとえば週1%の割合でボーナス (bonus) ポイントからドーナス (donus) ポイントに変わってゆきます。ドーナスとはラテン語で「贈り物」という意味ですが、ドーナスポイントになってしまうと消費者はこれを自分の買い物に充てることはできず、NPO に寄付するしか使い道がなくなってしまいます。NPO はこのドーナスポイントで企業から必要な商品やサー

ビスを買い入れることができるので、このシステムに参加するとそれだけ運営の助けになるというわけです。

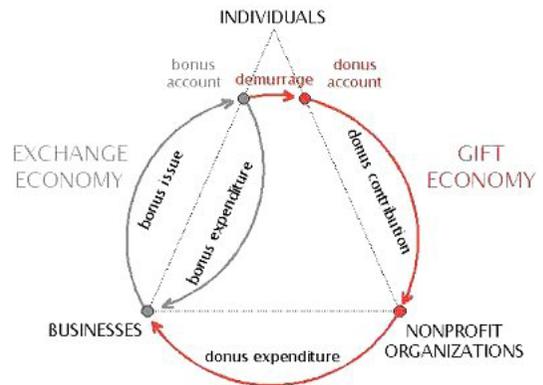


図1: LIBRA のしくみ²

この LIBRA システムの仕組みで非常に面白いのは、交換経済 (市場経済) と贈与経済が相互扶助的な関係を築き上げていることです。つまり、普通のポイントカードのシステムではポイントは単に販売促進の道具としてのみ使われますが、1週間に1% (ということは1年間で約半分) というペースでボーナスポイントがドーナスポイントになることで、半強制的な形で NPO への支援が実現できるわけです。先ほど陽経済と陰経済の話をしたしましたが、陽経済的な側面を持つボーナスポイントを陰経済的な側面を持つドーナスポイントにしてしまうことで、陰陽の橋渡しをできるようにしているのが LIBRA プロジェクトの面白い点だと思います。

また、消費者各個人が自分の応援したい NPO に寄付ができるのも重要な点ですが、これは従来の地方自治体や中央政府といった行政機関を通じた支援ではどうしても行

政機関の意向が働いてしまい、本当に市民が応援したいNPOに必ずしも十分な資金が回らないので、少なくともこのLIBRAでは市民一人ひとりにその決定権を与えようというものです。ですから子どもを取り巻く環境に関心がある人であれば子育て支援を行うNPOに、地域の自然に関心がある人であれば地域の環境保全を行うNPOに、文化活動に関心がある人であればたとえば地元の劇団に寄付をすることで、財布を痛めることなく自分の応援する活動を推進することができるわけです。買い物は企業を支援する投票行動だとよく言われますが、ここではドーナスポイントの寄付がNPOを支援する具体的な投票行動になるわけです。



写真2：LIBRAのメンバーとの記念撮影

現在のところこのシステムが実際に動いている事例がないのが残念ですが、近いうちに世界のどこかでLIBRAが動き始めることと思います。

倫理銀行（イタリア・パドヴァ市）

<http://www.bancaetica.com/>

次に、1999年に創業して現在急速に業務

を拡大しつつある倫理銀行のお話をしましょう。

倫理銀行は、もともと社会的な事業を行いたい融資をしてくれる金融機関がないという問題を抱えた多くのNPOを母体にし、ヴェネチア市のそばにあるパドヴァ市で開業しました。現在では本店のあるパドヴァの他に7つの支店で120名（顧問など非職員も含む）が働き、15名の「移動銀行員」（イタリア銀行法で認められた制度で、銀行としての営業活動資格を認められた契約社員）を擁し、これまでに約3億ユーロの資金を集め、2004年8月現在1261団体に約3億ユーロを融資しています。

この銀行に資金を預ける際、預金者は「社会協力」「環境保護・有機農業」「途上国開発」「文化活動」の中から自分の望む分野への投資ができ、また倫理銀行が定めた上限以下であれば、利率を自由に決定できます。それこそ、利息をゼロにすることも可能ですし、低い利息を受け入れた場合にはそれだけ融資先に対して倫理銀行が低い金利で資金を貸し付けることができますようになります。こうして集めた資金についてですが、倫理銀行は上記の目的に沿った事業について、採算性と社会性の両方を審査した上で融資を行います。また、各地で株主会議が定期的に行われて、そこで倫理銀行の運営や広報活動などについていろいろな議論や決議が行われます。具体的な融資案件としては、中米ホンジュラスのコーヒー農協（フェアトレードを推進する英国のNGOと共同で）「チッター・フトゥーラ」（南伊リアーチェ市の荒廃した旧中心街再生プロジェクト）、ベネディクト派のラヌヴィオ修道院の経営す

る有機農協の再生プロジェクト、反マフィアNGO「リベラ」への融資プロジェクト(有機農業の振興による地下経済からの脱却)、薬物中毒患者などの更正協同組合「イル・ポスト・デッレ・フラゴーレ」、「コンソルツィオ・ペネロペ」(アルバニアの経済支援)などがあります。



写真3: 倫理銀行の広報担当のアントネッラ・モンディーノさん

今回お伺いした際には、売春婦への健康管理や社会復帰を支援するパドヴァ市のNPOの話を伺うことができました。売春婦という職業はエイズや梅毒などの性病を患うリスクの高い非常に危険なものですが、このNPOはあくまでもこの人たちに病気についての知識を教えたり、あるいは売春婦がこの仕事から足を洗おうとする際にそのための宿泊施設を提供するという形で支援をしようとするものです。このNPOはパドヴァ市役所から助成金をもらっているのですが、この助成金をもらうまでの運転資金を倫理銀行が融資することで、社会的に非常に弱い立場である売春婦の生活支援を行うということです。もちろん売春自体に対する社会的な批判もありますが、ここでは売春行為自体を非難するのではなく、あく

までも売春で生計を立てているという事実を受け入れた上で、その人たちが必要以上に苦しむ必要がない状況を作り出そうとしているわけです。

この倫理銀行は、「社会的経済」(social economy)の担い手として諸外国(フランス、カナダ・ケベック、ブラジルなど)の金融機関や研究所、それに政府機関などと連携しつつ、その理念を世界に広めています。今後の発展が楽しい金融機関です。

(続く)

(注)

¹ 詳細は <http://www.terratrc.org/TerraSummary.pdf> で。

² <http://www.aequilibra.it/circuit.htm>